

# 掛川地区更生保護女性会便り

平成25年3月  
第84号

「更女会を理解し合い、繋げることを祈って」

会長 富田 とみ子

御 歌

きずつきし心の子らを いただきよする ははともなりて いくしまなむ  
昭和34年9月 当時の皇后陛下より  
更生保護関係者に賜った御歌

更女会に入会し、はじめて「御歌」を斉唱した時、胸がジーンとあつくなりました。就業中には、ただひたすら仕事へと打ち過ぎていた私に、あらためて心暖まる生き方を教えて下さいました。

だれにでも純真無垢な幼い頃があり、それぞれの環境の中で暮らし育って行きます。特に幼い時に「母の愛」を充分受けて育った子は幸せです。逆に何らかの違いで愛に恵まれなかった子にはどう関わったらいいのでしょうか。

島津久子先生の著書、「星に花に愛」には、「自分の周りにいる近所の子供を見ても、それを他人の子と思わないで、悪い事をしそうな時に一声かけることが必要と思います。この一声運動は犯罪や非行の防止に繋がって行きます」とのお言葉があります。

真心を込めた優しい言葉かけは、いつか子供達に伝わると信じます。大それた表現や格式でなく、自然体で、しかもみんなで“更女活動”が出来たなら、やりきれない思いの子達を少しでも救える、非行を防げるのではないかと思います。どんな立派な1人の言葉より、大勢の声かけ、思いやりが大切であり、実行できると思い期待しています。掛川地域に「そんなおばさん達があちこちにいるよ」と言われ、その光景を見て「私も出来そうね」と感じて、新しく仲間に入って下さったなら二重の喜びです。

平成23年度スタートに際して、思いがけない重責の話があり、戸惑い、悩んだ事が昨日の様です。気弱な応答に対して「みんなで助け合うから」と力強い言葉を頂いても不安一杯抱いてお受けしました。あれから今日までずっと変わらぬ暖かいご協力をいただいたからこそ、諸行事の遂行まであと一歩と言う処まで近づく事が出来ました。今となつては大変だった事より、嬉しい感動の場面が甦って来るばかりです。これもすべて、役員の方々と、会員皆様のお陰と心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

これからも更女会員みんなで「絆」を大切にし合い、心の温かさを求め合って活動されますようお願いして止みません。



## 言葉

大須賀支部 鈴木 幸子

言葉は、相手の心に明暗を感じさせます。

ほめられたり、気遣ってくれたりした時は心が和みます。しかし、時に相手がさりげなくもらした言葉でどうしようもなく心に傷を残す事があります。それが信頼していた人からだと深刻です。介護されている高齢者に「この位やれるよね」とか、受験前の子供さんに「あなたなら大丈夫よ」等、努力している者にとっては、プレッシャーになり自棄・焦燥になったりします。

言葉づかいは難しいものです。

格言に“言いこぼしは、拾い込みが効かない”とされています。私達は人を慈しみ思いやりの心で接し、皆が心豊かに日々を過ごす事が出来る様に、温かい声掛け運動に力を入れる様に心掛けましょう。

## 研修は自己研鑽の場

大須賀支部 松下 実千代

平成 24 年度は、9/28 保護司合同自主研修会で掛川報徳社へ。

10/22 更女視察研修で、デンマーク牧場児童養護施設まきばの家へ参加いたしました。

報徳社では、報徳の心を以て生活する事、又報徳訓により父母あつての自分の存在、子孫へつなげるは講話を聴く事により夫婦のありよう等を改めて認識をしました。その上でデンマーク牧場、又まきばの家で暮らす子供達が自己否定、自己防衛、自己主張しなければ生きていけないんだと、心の余裕も持てなくなったのは家庭環境にあるんだろうと思うと、自分の子育てや家庭は？と振り返る場でした。このように研修に参加する事は知らない事を知り、考える事が出来、何かしら自己研鑽出来ているのかなと思いました。



5月8日の総会から8ヶ月更女役員の皆様のご協力によりここ迄の行事を大過なく、参加させて頂きました事本当に有難く感謝申し上げます。

年毎に日常生活にも時間がかかる様になり気持ちにもゆとりが持てなく成った様に感じるこの頃です。

6月28日 社明運動広報活動の準備会は掛川市役所にて保護司さんと配布物の袋詰です。

大変な数量で「いい汗流した。」清々しい思いをした事を思い出しました。

8月17日 朝から蒸し暑く不快指数もうなぎ登り異常気象連続の中、毎年会員の皆様にご協力頂く「更女のお茶」を利用してのお茶会が二の丸茶室で行われました。

緑に囲まれた静かで極上の涼しさの中に身を置く事が出来ました。

鈴木敏子先生によるお作法いろいろ教えて頂きながら心にゆとりを持ち幸せとあらゆるものへの感謝を感じる大切な時間となりました。



二の丸茶室

9月28日 保護司更女合同自主研修会「今に生きる報徳の精神」

講師：社団法人大日本報徳社 専務理事 宮川正夫先生

報徳の精神は私たち毎日の生活の中に生き続き、大切な教えである事を再認識するよい研修でした。

子供達には大きな目標を掲げつつ、足元の小さな行いをコツコツとこなし目標に達する事を伝えられたらと思います。

又、もっともっと多くの方々と報徳の精神を学ぶ機会が有ったらと望んでおります。



二宮金次郎像



報徳社

10月22日 社会福祉法人デンマーク牧場福祉会  
児童養護施設「まきばの家」視察研修

61名のご参加を頂き本当に嬉しく思いました。

30名が入所され（2歳～18歳）その75%が虐待を受け保護された子供さん。親が居ても子育ての出来ない、愛情を持って育ててもらっていない子達。

修復のきかない心に出来た傷はどうすればよいのでしょうか。お母さんの胸でぐっすり眠りたいでしょうに。3歳迄の大切な時期、子供が悪いわけでは無いだけに胸がせつないですね。

会員の皆様が持寄って下さった品々は更女の心と共に子供達の生活の中で有効にお使い頂ける物ばかりだったと思います。本当に有難うございました。



まきばの家

横須賀城下町並み見て歩き

講師：大須賀郷土研究会 岡本 久生先生



八百甚

八百甚さんでの昼食後、岡本先生による横須賀の歴史についていろいろご説明頂き横須賀の町並みを見ながら清水邸本宅まで散策。清水家本宅はかつて廻船問屋を営んでおられ奥座敷も土間も広い。又郵便局としても使われ正面玄関の鬼瓦に〒のマークが入っていましたね。驚きです。

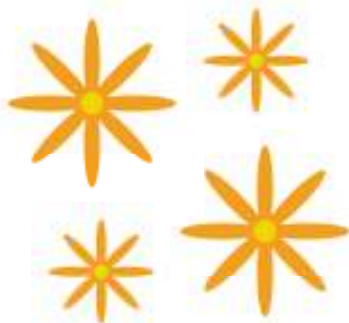
通常日曜日だけ開放の本宅も、当日は私達更女のために特別のお図らいで建物内の見学ができ、感謝致しております。

内部の木組や伝統的な工法を見ながら清水邸庭園へと通り抜けお庭を見ながらの一杯は味わいも格別でした。静かな秋の1日を多くの方々にご参加頂きました事を心より感謝申し上げます。

ご協力有難うございました。



清水家本宅



冬期はかなり厳しい寒さであろうここ福井。今日（11/29）も曇って。バスは玄関まで。降りて中へ2階。通された部屋で共に注意事項伺う。と……かわいい婦警さん（課長？）の部屋!!明るい感じが、ほっとさせてくれる。40人なのでふた手に分かれて視察。香り、服装、物落とさぬよう荷物は持たずここへ。私語禁じ、目あわさない等、緊張感の中、説明を聞きながら足早に通路を進む。通路に鉢植えが並んで……。

暖房設備あったが、冷えびえとした通路にも春待つ花が。そのパワーをも受けて頑張ると願う。室内はよく見え整理整頓され、規則正しい日々を送っている様子が伺える。独房の他、3人一緒。テレビも。廊下から「窓口」は、やはりここはと思う。食事はカロリー計算されて、麦ごはんも。朝食時間短い、出所後の職業にも考慮されいろんな分野に各々習いごと、ライセンス等。帰りにその手作りの小物等求め、今、重宝している。

田園の中、けっこう広く、体を鍛えることも。いろんな事情からはからずもこの生活へとなった人たちが心から頑張ると願う。曾野綾子氏の「足し算の幸福」から一。ないものを数えあげるのではなく、今あるもので喜ぶ。出発点を低いところにおくと、わずかなものでもあればありがたいと思えて、いくらでも足し算ができる……と。体をだいに、つとめ、日々を大切にすごしてほしい。視察研修という機会を与えていただき感謝しております。ありがとうございました。

#### 保護司・更女会合同視察研修に参加して

掛川支部 大谷 よし

去年の11月、親切な先生方のお誘いがありまして福井刑務所の視察研修に参加させて頂く事が出来ましたことは誠に有難い事でした。

そこは、大変に広くて階段も多く、係員が足早に歩くので歩く事の苦手な私は、皆さんに助けて頂いてお陰で見学が出来ました。

刑務所内の説明は若い女性課長でした。課長のお話で受け入れの一番メインは所内の製品を買っていただきたい事を冗談めかしておっしゃいますので、私は持つのに軽くて小さくて安価なものと思い、メモ帳3冊と七宝焼のブローチを求めました。

そのメモ帳の1冊は、木版刷で福井監獄と大きく丸く印刷されて200枚位が1冊になっていて、表紙だけ印刷されているのかしらと思いましたら最後まで続いておりましたので何か心が熱くなりました。

レジでは、こんなに少ないお買い物なのに有難うと心より言ってくれました。明治時代に建設された当時は監獄と呼ばれていたのですね、悲しい文字ですね、当時の頃を忘れずにメモ用紙を作っているのでしょうか。冬は雪に閉ざされている事でしょう。靴や家具もありました。その収益は所内の経費になるのでしょうか。

色々様々な、ご縁に触れての現在の生活なのでしょう。罪を償い、まじめに社会へ復帰した時は暖かい心に私もなって温かく迎えていこうと思いました。研修会本当にありがとうございました。

さて、昨年、更女を10年前に活動していた方へお年賀状を出したところ、お電話で来年度から活動して下さるとのお返事をいただき、また掛一小6年生2クラスに戦争中のお話をして下さいとのお話でしたので、落合さんと参りました。その帰りも来年度より入会して下さるとのことで、掛川支部が人員が少ないことをお伝えしましてご協力を得ました事、大変ありがたく嬉しく思い感謝しております。

## 障子張り作業

更正保護女性会 参加人数 20名

12月4日、小笠老人ホーム障子張りに行きました。

ホーム集会室他の障子を張りました。

私達がおはようございますと声を掛けると、ニッコリ笑顔であいさつをして下さりご苦勞様と言っていただき、とてもなごやかな内に作業が出来ました。

きれいな障子のお部屋で新年を迎えられることをお祈りして――。



障子張り作業

## 夕食作りに参加して

大東支部 佐藤恵子

それぞれの事情があって、好ましくない経験をしてしまったのではないかとと思われる少年達へ手作りの食事を、そしておふくろの味を楽しんでもらおうと、私達7名はそれぞれの思いを抱きながら、去る1月7日「静岡少年の家」の夕食作りに参加させていただきました。家にあるものを持ち寄り、家庭料理を感じてもらいたいことを願いながら次のメニューを考えました。

- ①炊き込みごはん (5品目のまぜごはん)
- ②みそ汁 (大根、人参、ごぼう、ぶた肉、油揚げ)
- ③サラダ (レタス、キャベツ、トマト、きゅうり)
- ④デザート (りんご、みかん、他)

こぢんまりとした厨房で、少年達に思いを馳せながら手を動かし、技を発揮しながら、おふくろの味で何とかまとめることができました。

少年の家のある一室に

- 「・耐えて努力できる人になろう
- ・他人を思いやれる人になろう
- ・うそを言わない正直な人になろう」

と、掲げてありました。

西の空へ冬の夕日が沈むころ、私達7名は心なしか暖かいものを感じながら家路につきました。私達が作ったささやかな夕食を笑顔で食べてくれる姿を想像しながら……。そして、一日も早く更生して、家族のもとへ帰ることができるように、そっと祈りながら……。



夕食作り



2月4日、大東市民交流センターにおいて大東支部の活動として、ミニ集会を開催しました。

掛川、大須賀、大東3支部の皆様が大勢参加され、オープニングには会員の方も参加したフラダンスが披露され、とても楽しい雰囲気から始まりました。

県更女活動DVD「ひろげる」を鑑賞後、講師に郷土史家の石野茂子先生をお迎えして、「今をいかに生きるか」と題して講演を聞きました。

先生は、大日本報徳社の講師としてもご活躍なさっており、健康で節度を守り多くの出会いに期待し、人のために生き感謝の日々を送ることの大切さをお話しになりました。

親睦会では、会員による手作りのお菓子、更女のお茶で意見の交流をしました。

このように、更女会ですべてまかない充実した会となりました。

これからも活動を通じて会員の増強をはかりながら、更生保護の心をさらに広めていきたいと思えます。



### 会員募集

掛川地区更生保護女性会では一緒に更生保護活動をしていただける新規会員さんを募集しています。知り合いの方で、興味をもってくれそうな方がいましたら、声を掛けてみてください。

◆次号の編集担当は大東です

